

令和5年度第6回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和6年2月15日（木）午前9時30分～午前10時45分

ところ：市役所6階 大会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）
傍聴者 1人

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について（報告）

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和6年二十歳の集いについて（報告）
- (2) 第20回小平よさこいスクールダンスフェスティバル in 2024について
- (3) 第17回多摩六都ヤング・ダンスフェスティバルについて

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（1月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（3月）について

【図書館】

- (1) 第5次小平市子ども読書活動推進計画策定の基本方針について
- (2) 第44回ふるさとの新聞元旦号展について（報告）
- (3) 令和5年度 郷土写真展 こだいらの「はたらく」について
- (4) 児童文学講演会「絵本からはじめる恐竜の進化のお話」について
- (5) 大道芸人絵本作家がやってくるについて
- (6) 英語でおはなし会について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 二十歳の集いは最高だった。時間の使い方もとても上手で、Z世代のタイムパフォーマンスを気にする世代が企画したからかなと思った。何よりも参加者が集中していたと思う。司会などがとても上手だったし、事前に打合せもして練りに練ったんだろうと、陰の苦労みたいな

ものが感じられた。ぜひ、今回のよかった点を次に継承して行ってほしい。

中央公民館のオール公民館まつりで、高校生の事業企画も過去に余りなかったと思うので、成功してうまくいくといいと思う。

図書館の郷土写真展はホームページなどで公開するのか。図書館に足を運んでもらうという趣旨もあるが、自宅で大きなパソコンでじっくり見られたらいいと思う。

○事務局 高校生の事業企画委員会は、令和4年度から試行で取組を開始し、オール公民館まつりで何かできないかと計画していたが、市内の高校生の期末試験の時期と重なり、参加できる学校が1校しかなく、昨年度は、白梅学園清修中高一貫部の方がマゼンタ・スターについて講演会を実施し大変好評だった。今年度も白梅学園清修中高一貫部の皆さんの企画で発表会が行われる予定になっている。市内の高校の皆さんでいろいろと検討していただいているので、お祭り以外のときに様々な取組がこれからも展開できればと思っている。

○事務局 もともとは図書館のホームページにデジタルアーカイブというコーナーがあり、昔からの郷土写真が載っている。郷土写真展の写真の多くはそこから「はたらく」というテーマで集めて見やすく説明書きをつけたものである。

○委員 ホームページでも展覧会だけを集めたページがあれば、一般市民は見やすい。毎年積み重なれば、それを見る楽しみもある。

○委員 第5次子ども読書活動推進計画の基本方針ということで、ここに書かれていないが、不読率は目標としてあるが、達成するしないということは余り意識していないのか。

個人が今まで読んだ履歴が蓄えられると思うので、その人にとっていい本を推薦することをデジタル化で案内したり、検索をするときにチャットボットを導入して、随時パソコンの中で選択できたり、デジタル化の今後の計画はあるのか。

○事務局 国の一番新しい読書活動の推進に関する基本的な計画においては、不読率の低減を打ち出して計画を立てている。小平市の次の計画については、これからアンケートを行い、その状況を見ながら策定を行うことになるので、どの世代が不読率が高いか、低いかなどを見ながら、検討する。

デジタル化が進んでいく中で、現在の図書館のシステムの中でも、登録をしている方が、マイページの中で読んだ本を登録できるようになっている。ただ、コンピューターがおすすめ本を示すことは、現段階では実用化はされていないと思う。

○委員 二十歳の集いについて、開始時間が午後になったことも、着物を着る方にとっても遅い時間のほうが参加しやすかったと思った。式典は厳かに、アトラクションはすごく盛り上がって、すごく温かい感じになっていた。アトラクションの抽せん会は新しい形で、今までは該当者がいなかったら新しい番号を引いていたが、今回該当者がいない場合はどうしたのか。

今までは、吹奏楽団が参加して音楽で20年を振り返るという催しがあったが、今回はなかった。今後どうなるのか。

○事務局 配付しているパンフレットに1人ずつナンバーが振ってあり、当たった方に後で取りに来ていただくように変えた。取りに来ない方は無効ですとお知らせしており、幾つか取りにこ

なかったものは、実行委員会に預けている。

吹奏楽について、例年7月頃、実行委員会に集まっていただき、過去にこういうことをやってきたが、今回どうするか、内容自体も実行委員会で検討しているので、今回は時間などいろいろ考えた中で吹奏楽はやらないと決まった。毎年内容は検討していく。

○委員 今の二十歳の集いについて、抽せんで番号が出たときに手ぐらい挙げてもいいのではと思った。提供していただいたものは、多くの方に渡してほしい。

また、午後からの開催がすごくよかった。今までの11時開催だと朝出てくるのにばたばたしたり、外で話しをしてなかなか中に入ってこなかったが、少し開始が遅くなって余裕をもって会場に来られる。吹奏楽団の音楽で振り返る20年は、すごく盛り上がりがあった。実行委員会で決めていくことだが、とてもいいものだったと言ってほしい。

「はたらく」の写真展や恐竜博士を呼ぶなど、とても楽しいイベントを公民館のように図書館もやってくれるということで、社会教育施設としてすごく充実してきていると思う。前からいろいろな楽しいことをして図書館はすばらしいと思うが、資料No.7の第5次子ども読書活動推進計画のアンケートは、タブレット端末で答えるところが、とてもいい試みだと思う。また、デジタル図書について、どのように捉えているのか。

○事務局 二十歳の集いについて、これまでは午前11時からの開催で、コロナ禍を経験して午前、午後の2部制を実施し、午後開催でも特に問題ないことが分かり、今後は午後1時からの開催とした。何年も前から着物の予約をする方からの問合せが多くあり、小平市は午後1時開催と決めたので、周知を今も図っている。抽せん会や吹奏楽については紹介していく。

○事務局 子ども読書活動の計画の今回行うアンケートについて、特にデジタル図書に関する内容は一番興味があるところで、今回アンケートの項目にも「デジタルで本を読んでいますか」、「デジタルでどういう本を読んでいますか」などの設問も含めてアンケートを依頼している。学年別などで集計もできると思うので、その動向を見ながらどういう内容の計画を立てていくか検討していく。

○委員 郷土写真がデジタルアーカイブ化されている話を伺って、小学校3年生の学習に非常に役に立つと思った。古地図や土地利用地図などもアーカイブ化され充実していくと大変ありがたい。

アンケートの1人1台端末の利用について、WEBでのアンケート調査は、小学校現場では今当たり前になっている。学校はこういったことに慣れているので、もし調査を進めたいことがあれば遠慮なく活用してほしい。

「絵本からはじめる恐竜の進化のお話」は人気があると思ったら即定員に達したということで、できたら、オンラインも使ってハイブリッドでより多くの人たちが参加できるようにしたいと思う。

○委員 多摩六都ヤング・ダンスフェスティバルについて、参加校13校とあるが、多摩六都の全ての高校に参加募集の案内を出したのか。特別支援学校についてはどうしたのか。

○事務局 コロナ禍を通じて、ハイブリッドについては、技術的には問題なくできるようになっ

てきている。講師の方との調整で、そういったこともご理解いただければ、できるようになってくると思う。ただ講演会の中で、実物を持ってきて、その場で直接触らせることに重きを置くような内容だと、技術的にはできても現場のみという判断をすることもあり得ると思うので、調整していく中で、ハイブリッドもできるものについては展開していきたい。

○事務局 多摩六都圏域5市、小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の高校には全て案内しているが、特別支援学校には案内していない。今後案内していきたいと思う。

会場のルネこだいらの予約ができるときに限られて、この日ということで案内するので、試験と重なり参加できない高校はある。

○委員 いただいた資料の公民館だよりの館長のコメントに「子どものサークルも複数誕生しました」とあった。子どもの頃から公民館に慣れ親しんで未来に向かうとても明るい情報だと思った。もう少し詳しく教えてもらおうと参考になると思う。

○事務局 今年度の取り組みでは、中央公民館の中庭でめだかクラブという地域の大人が教えて職員も手伝いながら育てていたが、それを子どもたち向けにメダカとはどういうもので、どう育てるかを教えて、めだかクラブのメンバーになってもらいその後も友・遊こどもまつりやサークルフェアのときにも集まってもらい、また新しい子どものメンバーも募集している状況になっている。

もう一つはダンスで、小学生のヒップホップダンスを教えるジュニア講座を開催した。15人の定員のところ120人の応募があり、保護者に相談をして、これからも継続して子どもたちとダンスを学びませんかとお話ししたところ、サークル化が決定して、今回は二組がサークル化につながった。

○委員 自主研究で、ボランティアの人材不足を課題に取り上げているが、1月20日号の市報に「中学生の勉強を手伝いませんか」と記事が載っていて、市報を利用して人材を募集することも可能かなと思った。

今、発達障害や情緒不安定のお子さんがかかり多いが、放課後子ども教室などでそういうお子さんがいた場合に、サポートできる人材を確保しているのか。

○事務局 ボランティアの募集は基本的には各学校で人材を探していただくが、広く募集したいとの声があれば市報で案内している。

放課後子ども教室に関しては、発達障害など特別な支援が必要な方が参加する場合には、増員で見守る方の手配はできるようにしているが、各学校区で事前に要望していただき手当をする形で実施している。

○委員 小平よさこいスクールダンスフェスティバルについて、前半の部と後半の部の2部制で完全入替え制とのことだが、自分の子どもが終わったら帰ってしまう家族を見たり、次の学校が踊っているのに立ち上がる家族がいて、ちょっと残念だなと見受けられたが、今回、完全入替え制が徹底できるのか。

○事務局 様々イベントを見ていると、自分たちの見たいところが終わると帰ってしまうことが見受けられるが、基本的には皆さんに見てほしいと感じている。今回、小平よさこいの会が主導

で、完全に入れ替える。

○委員 小平第六小学校がPTAについて、本部役員はそのまま、クラス役員一クラス3人ずつで90人はいるが、全部廃止したということで、地域の見回り、運動会の準備、学校公開のときの受付など、どうしたかという、IT化で、それぞれスマートフォンでお手伝いできる方、手を挙げてくださいと募集し、できる方がスマートフォンを押すだけでできる。今のところ保護者のボランティアに限っている。

地域住民に同じようなアプリを作って、例えば見回りや家庭科のミシンかけ、調理実習のお手伝いなどを募る。まだ先のことかもしれないが可能だと思い、これからの要望、願望も含めてお話しした。みんな子どもたちのために集まっている会なので、これからも発展していくことを願っている。

○議長 最初の教育長あいさつで、郷土かるたを職員で共有していると聞いて、すごくうれしかった。郷土かるたは、細かいところまでちゃんと示されているので、ぜひ皆さんで楽しんで、小平のよりよくなるための一歩としてすごくいい取組だと思った。